

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
小竹町	小竹地区	令和4年1月12日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	170ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	165ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	26ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	19ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	10ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・近年の豪雨災害や降雨不足、イノシシ等の有害鳥獣による農作物の被害が多発しており、今後の営農活動に支障を来す規模になってきている。 ・農業労働力について、募集の発信力が足りず、十分な労働力を確保出来ていない
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>(現状について)</p> <p>集約化について一部の農事組合法人は、今後農地を管理して欲しいといった地権者の要望に対し、受け入れていく準備が幾分はあるとのこと。またその他の法人、個人農家については、現状耕作している農地を維持管理していく方針であるとのこと。</p>
<p>(今後について1)</p> <p>農地の集約化を進めるにあたり、喫緊の課題として豪雨による水害への対策、降雨不足時におけるポンプの給水等による水の確保、イノシシ等有害鳥獣による田畑への被害防止といった農地環境の問題が挙げられる。現状の農地環境の問題を緩和・解決しなければ、中心経営体各位も規模を拡大出来ず、集約化も積極的には進められない。</p>
<p>(今後について2)</p> <p>農地の集約化を進めるにあたり雇用・後継について、中心経営体各位も人手や後継者を確保しなければいけないと考えているが、現状の農地環境の問題を緩和・解決しなければ、後進に継いで欲しい、雇用を増やすという提案も出し辛い。</p> <p>また、人員の募集について、中心経営体各位からも随時発信しているものの、現状では十分に伝わっているとは言いがたい。人員募集を今以上に発信していく体制、手段を構築していかなければいけない。</p>